

学習評価を活用して思考力・判断力・表現力の 育成を図る小学校社会科授業の開発

—単元「犬童球溪と『旅愁』」の開発を手がかりに—

藤瀬 泰司・恒松 龍治*・吉海 雄平**

Social Studies Lessons for Developing Children's Social Viewpoints by Evaluating Their Learning: Designing the Unit “Kyukei INDO and His Songs”

Taiji FUJISE, Ryuji TSUNEMATSU, Yuhei YOSHIKAI

(Received by October 1, 2015)

I. 問題の所在

平成19年に学校教育法の一部が改正され、基礎的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養という学力の三要素が重視されることになった¹⁾。これに伴い、平成20年に改訂された小学校学習指導要領の総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度」²⁾を養うことが教育課程の重要な編成方針となった。

こうした要請に応じて、思考力・判断力・表現力の育成を図る小学校社会科授業の開発研究が行われてきた。例えば、岩田一彦らの言語力育成研究³⁾や小原友行らの社会科リテラシー研究⁴⁾が典型的である。これら2つの研究は、子どもの言語活動を充実させて社会の見方・考え方の育成（社会認識や価値判断の成長・深化）を図る方法を明らかにして、それに基づく授業計画や授業実践を提示している。言語力育成研究と社会科リテラシー研究は、その研究成果を学習指導要領の告示と同年又はその翌年に発表することによって、思考力・判断力・表現力を育成する社会科授業作りのモデルを示した点で高く評価できる。

しかしながら、「思考・判断」という観点別学習状況評価の観点が「思考・判断・表現」に改められた今、先導的な役割を果たしたこれら2つの研究は、学習評価の方法を組み込んでいない点で限界があるのではないか。中央教育審議会が平成21年に報告した「児童生徒の学習評価の在り方について」では、「思考・判断・表現」の観点について「各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価する」⁵⁾ことを求めている。つまり、今次改訂の学習指導要領では、子どもの言語活動を手掛かりに社会の見方・考え方を可視化することが求められているため、その情報を使った指導の改善や授業の見直しをより積極的に行う必要があるわけである。したがって、子どもの思考力・判断力・表現力をよりよく育成しようとするならば、言語活動の充実を通して社会の見方・考え方の育成を図る授業計画や授業実践を開発するだけでなく、その授業計画や授業実践に学習評価を組み込む方法を明らかにする必要があるわけである。

それでは、学習評価を活用して思考力・判断力・表現力の育成を図るためには、どのような社会科授業を開発すればよいのだろうか。本稿では、この問いに答えるために、子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する社会科授業作りの方法を提起したい。このような方法に基づいて授業を開発すれば、単元各所で子どもの社会の見方・考え方を可視化して評価し、指導の改善や授業の見直しを行うことができるため、思考力・判断力・表現力の育成をよりよく図ることができると考えられる。

以上のような問題意識のもと、本稿では、子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科単元「犬童球溪と『旅愁』」を開発することによって、学習評価を活用して思考力・判断力・表現力

* 熊本県立教育センター指導主事

** 人吉市立東間小学校教諭

の育成を図る社会科授業の具体像を提示することを目的とする。なお、社会科授業は、その方法原理によって中身が大きく異なるが⁶⁾、今回は、説明の原理に基づく授業を開発する。というのも、科学的学問的な社会の見方・考え方を育成する説明型授業は、授業目標をシンプルかつ明快に設定できるため、その達成状況を把握しやすく本稿で提起する授業作りの方法の有効性を検討しやすくと考えるからである。また、本論文は分担執筆である。そのため、各章又は各節の末尾に執筆責任者の氏名を記した。論文の構想及び編集は藤瀬が行った。

(藤瀬泰司)

II. 子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科授業作りの方法

単元「犬童球溪と『旅愁』」を事例にして、子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科授業作りの論理を示すと、表1のように整理できる。子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価するためには、次の3つの原理に基づいて授業を構成しなければならない。

第1の原理は、学習評価の対象に関すること。学習評価の対象である子どもの思考・判断を可視化するためには、問題解決的な学習として社会科授業を構成しなければならない、というものである⁷⁾。なぜなら、子どもの思考・判断を可視化するためには、課題の解決に取り組ませる授業を構成し、その解決に必要な知識や技能を習得・活用させることによって、子どもに考えたことを「相手にも分かるように表現」⁸⁾させたり、「根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明」⁹⁾させたりしなければならないからである。例えば、本単元の場合を考えてみよう。第1時は「学習課題の提示」である。「なぜ犬童球溪は、『旅愁』を作ることができたのだろうか」という学習課題を設定し、その答えを予想させて、自分の考えを表現させる。第2時から第6時は「学習課題の探究」

表1 子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する社会科授業作りの論理
—単元「犬童球溪と『旅愁』」—

段階	教師の主な指示や発問	主な資料	子どもに習得させたい知識	評価 規準
学習課題の設定	①犬童球溪はなぜ『旅愁』を作ることができたのだろうか。	CD『旅愁』 歌詞『旅愁』	①球溪が天才だったからではないか。球溪が人吉を愛していたからではないか。球溪が家族思いだったからではないか。球溪が歌好きだったからではないか。	①資質 主張型
学習課題の探究	②予想した答えの証拠資料を、副読本を使って探そう。	『わたしたちの人吉市3年・4年』	②「小学校の頃から音楽に強い関心があった」「人吉盆地を取り上げた歌をいっぱい作った」「家族のつながりを歌にした」	②資質 論証型
	③予想した答えの証拠資料を、タブレットを使って探そう。	インターネット	③「球磨川の溪谷に生まれたことから球溪というペンネームをつかった」「熊本県の推薦で東京音楽学校に入学した」	
	④1880年以前、洋楽を日本語にした唱歌がないのはなぜだろうか。みんなの予想で説明できるだろうか。	CD『蛍の光』 歌詞『蛍の光』	④1880年以前にも歌の天才はいたはず。1880年以前にも故郷を愛する人はいたはず。1880年以前にも家族思いの人はいたはず。予想した答えだけでは説明できないのではないか。	③背景 主張型 ④背景 論証型
	⑤1880年以降、洋楽を日本語にした唱歌が数多く作られるのはなぜだろうか。	絵画資料「薩英戦争絵巻」	⑤西洋諸国の力を思い知った明治政府は日本の西洋化をめざした。その結果、音楽取調掛が設置され、1880年以降、洋楽が輸入され数多くの唱歌が誕生した。	
⑥日本を西洋化することが目的ならば、なぜ日本語の歌詞にしたのだろうか。	国旗や国歌、共通語や学校	⑥明治政府は、人々の国民意識を高めるために、国旗や国歌、共通語や学校を作った。洋楽を日本語にした唱歌も、国民意識を高めるひとつだった。		
探究結果の総括	⑦犬童球溪はなぜ『旅愁』を作ることができたのだろうか。	友達の見解	⑦多様な答え。	④背景 論証型

である。「球溪は楽才があったから」「球溪は郷土愛があったから」「明治政府が日本の西洋化をめざしたから」等、『旅愁』が誕生した様々な理由を、球溪の個人的資質と彼が活躍した時代背景に注目させて発見・習得させ、その成果を活用して自分の考えを表現させる。第7時は「探究結果の総括」である。学習課題に対する自分の考えを発表させ話し合わせることで、自分の考えを再構成させ表現させる。このように、問題解決的な学習を組織してはじめて、子どもに考えたことを自分の言葉で表現させることができるため、彼らの思考・判断を可視化できるわけである。

第2の原理は、学習評価の目的に関すること。社会の見方・考え方の変容把握を目的とする学習評価を実施するためには、構成主義の学習観¹⁰⁾に立脚して社会科授業を構成しなければならない、というものである。子どもは、決して無知ではなく、日常生活の中でもその見方・考え方を自分なりに築いている。そのため、学習評価を行うということは、子どもが持っている知識量の程度を診断し、その量的拡大をめざす授業を構成して、知識の量的変化を把握することではない。学習評価を行うということは、子どもが日常生活で築いている社会の見方・考え方を診断し、その見方・考え方の変容をめざす授業を構成して、見方・考え方の変容過程や変容結果を把握することである。例えば、本単元の場合を考えてみよう。日常生活で身に付けた常識的な見方・考え方に即して学習課題の答えを予想すると考えられる第1時では、『旅愁』誕生の理由を犬童球溪の個人的資質に結び付けて考えるだろう。『旅愁』誕生と球溪の個人的資質の関連を示す証拠探しを行わせる第2時と第3時では、曲誕生に対する自分たちの常識的な見方・考え方が間違っていないことを自覚させる。第4時から第6時では、『旅愁』誕生の理由を当時の時代背景に関連付けて探究させることにより、子どもの常識だけでは学習課題が説明できないことを実感させる。第7時では、前時までの学習成果について話し合わせることによって、『旅愁』誕生の理由に対する子どもの見方・考え方を揺さぶり思考を深める。このように、構成主義の学習観に基づいてはじめて、子どもの社会の見方・考え方を変容させる授業を構成できるため、その変容の過程や結果を把握できよう。

第3の原理は、学習評価の方法に関すること。社会の見方・考え方の変容を的確に評価するためには、言語活動と社会の見方・考え方をクロスさせた評価規準を作成しなければならない、というものである。例えば、本単元の場合、表2のような評価規準を作成できる。表の横軸は言語活動、表の縦軸は社会の見方・考え方にすることであり、これら2つの軸を交差させると、学習課題に対する子どもたちの回答を4つに分類できる。学習課題の答えを予想させる第1時では、学習課題の回答を球溪の個人的資質に注目して予想することはできても、その裏付けとなるデータや事実は提示できないと考えられるため、「①資質主張型」の回答が多くなるだろう。予想を裏付ける証拠を副読本等で調べさせる第2時と第3時では、球溪の個人的資質に関わる事実を根拠にして学習課題の答えを記述する「②資質論証型」の回答が多くなるだろう。球溪が活躍した当時の時代背景について学習させる第4時から第6時では、学習課題の答えを時代背景に注目して記述する「③背景主張型」や、時代背景に関わる事実を根拠にして答えを記述する「④背景論証型」の回答が多くなるのではないだろうか。学習課題の答えについて話し合わせる第7時では、単元のまとめでもあるため、「④背景論証型」の回答が多くなることを期待したい。このように、言語活動と社会の見方・考え方をクロスさせた評価規準を作成してはじめて、社会の見方・考え方の変容を的確に評価できるわけである。

以上のような3つの原理に基づく社会科授業を構成してはじめて、単元各所で子どもの社会の見方・考え方を可視化し評価して、指導の改善や授業の見直しを行うことができるため、思考力・判断力・表現力の育成をよりよく図ることができる。次章では、単元「犬童球溪と『旅愁』」の実験授業の様子と学習評価の結果について詳しく報告しよう。

(藤瀬泰司)

表2 子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する規準
— 単元「犬童球溪と『旅愁』」— 「高校未履修問題」の認知度

社会の見方・考え方	言語活動	学習課題の答えを記述している	学習課題の答えを事実やデータに基づいて記述している
旅愁が生まれた理由を球溪の個人的資質に注目して記述している		①資質主張型 第1時終了時	②資質論証型 第3時終了時
旅愁が生まれた理由を球溪が活躍した時代背景に注目して記述している		③背景主張型 第6時終了時	④背景論証型 第7時終了時

Ⅲ. 子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科授業の実際

1. 学習過程の視点からみた単元「犬童球溪と『旅愁』」の実際

前章で示した社会科授業作りの方法に基づいて単元「犬童球溪と『旅愁』」の授業を開発した。本単元の授業記録を教授書の形式に即して示すと、次頁の資料1のように整理できる¹¹⁾。本節では、導入部・展開部・終結部という各時の学習過程に即して、単元「犬童球溪と『旅愁』」の実際について報告しよう。

第1時は学習課題を設定する段階である。導入部では、『旅愁』のCDを聞かせ、歌詞の中で分からない言葉の意味を辞書で調べさせることで、『旅愁』に込められた犬童球溪の思いを想像させた。展開部1では、『旅愁』の楽譜と、その元になった“Dreaming of Home and Mother”(「夢にも見る家庭と母」)というアメリカの楽曲の和訳を提示して比較させ、『旅愁』がアメリカの楽曲に日本語の歌詞をつけたものであることを把握させた。展開部2では、『旅愁』を作った当時の写真資料を提示して、犬童球溪が人吉から遠く離れた新潟で曲を作ったことを把握させた。終結部では、「犬童球溪は、なぜみんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか」という単元の学習課題を設定し、それを子どもに問いかけた。子どもからは「家族と離れて寂しい思いをしたから」「家族のことを思ったいい歌だったから」「みんなに愛される曲を作りたいかったから」「人吉のことを愛していたから」「頭がいいから」「歌を作るのが好きだったから」「家族思いだったから」「アメリカの曲に出会い感動したから」という8通りの予想が出された。

第2時と第3時は子どもが自分たちの常識に基づいて学習課題の答えを探究する段階である。第2時では、前時に予想した学習課題の答えが正しいかどうか確かめるために、人吉市の社会科副読本『わたしたちの人吉』を用いて証拠探しを行った。導入部では、単元の学習課題とそれに対する8通りの予想を確認させるとともに、「これから2時間かけて、みんなが立てた予想が正しいかどうか調べよう」という本時と次時の学習課題を提示した。展開部1では、『わたしたちの人吉市』という副読本を使って、子どもたちが予想した8通りの答えの根拠となる歴史的事実を調べさせた。例えば、「家族と離れて寂しい思いをしたから」という予想の根拠となる事実については、「兵庫県の柏原中学校で授業妨害に合い体を悪くし退職した」という副読本175頁の記述に注目し発表した子どもがいた。このようにして、前時に予想した8通りの答えの根拠となる事実を副読本の記述からほとんど発見することができたが、「みんなに愛される曲を作りたいかったから」という予想の根拠となる事実は見つけることができなかった。しかしながら、その予想も間違っていないはずだという意見が多く出されたため、次時は違う資料を用いて証拠探しを行うことになった。第3時である展開部2では、インターネットや『球溪散策』の一部抜粋を用いて、さらに証拠探しを行った。インターネット上からは「球溪」という名前は本名ではなく、球磨川からとられた名前であることを発見した。『球溪散策』の一部抜粋については教師が配布し、前時に発見することができなかった予想の証拠を探させた。すると、子どもは資料から犬童球溪が『旅愁』を音楽雑誌に投稿したということを読み取り、それが「みんなに愛される曲を作りたいかった」という予想の証拠になることを発見した。終結部では、「犬童球溪は、なぜみんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか」という単元の学習課題を投げかけ、その答えの順位付けに取り組みさせた。子どもたちは、予想した8通りの答えから自分が特に重要だと考えるものをいくつか選び、それらを副読本やネットで発見した事実を根拠にして文章を作成した。第2時と第3時では、学習課題に対する答えを各自の生活体験や日常経験をもとにして予想させ、それを裏付ける事実を発見させる学習活動を仕組むことによって、子どもが自分たちの常識的な見方・考え方に基づいて学習課題を探究できるようにした。

第4時から第6時までは学習課題の探究を通して子どもの常識を変容させる段階である。導入部では、『蛍の光』のCDを聞かせるとともに歌詞を配布して、『旅愁』との共通点を尋ね、いずれの歌の原曲も外国生まれであることを把握させた。展開部1では、年表資料「日本語の歌詞が付いた主な洋楽」を提示して、子どもたちが知っている『蛍の光』や『仰げば尊し』などが実はアメリカやスコットランド生まれの曲であることを知らせるとともに、洋楽に日本語の歌詞をつけた曲が1880年以前には存在しないことを把握させた。展開部2では、「1880年代以前に、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がないのはなぜだろうか」という問いを投げかけ、これまでの調査結果をもとにその答えを導くことができるかどうか考えさせた。しかしながら、これまでに彼らが考えた学習課題の答え、例えば「人吉のことを愛していた」「頭がいい」などでは、1880年代以前には人吉のことを愛している人も頭がいい人もいないことになってしまうため、課題の解決にはつながらないことを実感させた。終結部では、子どもが前時までには調べたことでは説明できない「1880年代以降、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲が生ま

資料1 単元「犬童球溪と『旅愁』」の授業記録

1. 単元目標

犬童球溪が『旅愁』という人々に長く愛される曲を作ることができた理由は、郷土愛や家族愛、才能といった犬童球溪の優れた個人的資質だけにあるのではなく、明治政府が推進した欧化政策や国民育成策といった時代的背景にもあることを説明できる。

2. 単元計画（全7時間）

段階	各時の主題	評価の時機
学習課題の設定	第1時「旅愁の秘密をさぐる」	終結部で診断的評価を実施
学習課題の探究	常識に基づく探究 第2時「犬童球溪の秘密を探ろう－副読本編－」	
	第3時「犬童球溪の秘密を探ろう－インターネット編－」	終結部で形成的評価を実施
	常識を変容させる探究 第4時「犬童球溪の秘密をもっと探ろう①－1880年の前と後－」	
	第5時「犬童球溪の秘密をもっと探ろう②－唱歌と欧化政策－」	
	第6時「犬童球溪の秘密をもっと探ろう③－唱歌と国民育成－」	
探究結果の総括	第7時「犬童球溪の秘密をまとめよう」	導入部で形成的評価を実施 終結部で総括的評価を実施

3. 単元展開

第1時「旅愁の秘密を探ろう」

過程	教師の主な指示・発問	教授学習活動	資料	子どもの反応及び子どもに習得させる知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> この曲を聞いてください。何という曲だろうか。 漢字でどう書くのだろうか。 『旅愁』とは、どのような意味だろうか。辞書で調べよう。 歌詞を見て、意味が分からない言葉はあるか。辞書で調べよう。 	T 楽曲の提示 C 楽曲の視聴 T 発問する C 考える T 板書する T 指示する C 調べる T 発問する C 答える	① ②	<ul style="list-style-type: none"> リョシュウだ。 旅愁。 旅先で感じるしみじみとしたわびしさ。 「わびしい」は「頼れるものなどがなくて、心細くさびしい」という意味。「杜」は「木がたくさん茂っているところ。また、大木の茂る神聖な場所」という意味。「梢」は「枝や幹のさきのあたり」という意味。
展開1	<ul style="list-style-type: none"> 犬童球溪の自著『球溪歌集 四季』に掲載されている『旅愁』の楽譜を見て、気づくことを挙げてみよう。 『旅愁』の楽譜に“American song”と記載されているのはなぜだろうか。 原曲の訳詞と犬童球溪が作った歌詞を比べて思ったことや感じたことは何ですか。 『旅愁』は日本でどのくらい有名だろうか。 	T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 説明する T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 説明する	③ ④	<ul style="list-style-type: none"> “American song”と書いてある。『旅愁』という邦題の下に“Dreaming of Home and Mother”という英題が書かれている。 アメリカ生まれの曲だから。原曲は、オードウェイが作詞・作曲した「夢にも見る家庭と母”Dreaming of Home and Mother”である。 犬童球溪が作った詞の方が好き。原曲は母親の話が中心だが、犬童球溪が作った詞では季節や天候の話が多い。 2007年、文化庁とPTA 全国協議会が選ぶ「日本の歌百選」に、『仰げば尊し』や『蛍の光』等とともに選定された。
展開2	<ul style="list-style-type: none"> 『旅愁』に登場する故郷とは、具体的にはどこのことだろうか。 犬童球溪は、『旅愁』をどこで作ったのだろうか。この歌を作った当時の犬童球溪の写真から考えてみよう。 犬童球溪は、どこにいるだろうか。 犬童球溪は、当時、どのような仕事をしていたのだろうか。 犬童球溪は、当時、何歳くらいだっただろうか。 	T 発問する C 答える T 発問する C 予想する T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 発問する C 答える	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 人吉市。 わからない。タイトルが『旅愁』なので人吉以外の場所で作ったのではない。 真ん中の人じゃないかな。実際は前列右から6番目の洋服姿の男性である。 高等女学校の国語と唱歌（音楽）の担当教員（1906. 1～1908. 3）。 写真は1906年3月撮影。犬童球溪は、1879年3月生まれなので当時は27歳くらい。

	・犬童球溪は、何月ごろに旅愁を作ったのだろうか。	T 発問する C 答える		・[歌詞に「秋」という言葉が登場するので9月～11月に作ったのではないか。]『旅愁』は雑誌『音楽新報』1906年12月号に初めて掲載された。
終結	・犬童球溪はなぜ、みんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか。学習課題の答えを予想しよう。 ・みんなの予想が正しいかどうか調べるためには、何を調べたらよいだろうか。	T 発問する C 予想する T 発問する C 答える		・家族と離れて寂しい思いをしたから。家族のことを思っていたい歌だったから。みんなに愛される曲を作りたかったから。人吉のことを愛していたから。頭がいいから。歌を作るのが好きだったから。家族思いだったから。アメリカの曲に出会い感動したから。 ・詳しい人に話を聞く。本やインターネットで調べる。犬童球溪の生家に行ってみる。

第2・3時「犬童球溪の秘密を探ろう」

過程	教師の主な指示・発問	教授学習活動	資料	子どもの反応及び子どもに習得させる知識
導入	・前時に決定した私たちの学習課題は何でしたか。 ・前時では、この学習課題に対してどのような予想を立てましたか。 ・これから2時間かけて、みんなが立てた予想が正しいかどうか調べよう。	T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 目標の提示 C 目標の確認		・犬童球溪がみんなに愛される歌を作ることができたのはなぜだろうか。 ・①家族と離れて寂しい思いをしたから。②家族のことを思っていたい歌だったから。③みんなに愛される曲を作りたかったから。④人吉のことを愛していたから。⑤頭がいいから。⑥歌を作るのが好きだったから。⑦家族思いだったから。⑧アメリカの曲に出会い感動したから。 ・がんばるぞ！
展開 1	・まずは、全員が持っている『わたしたちの人吉市』から証拠を探そう。	T 指示する C 調べる	⑥	・表1を参照。
表1 副読本『わたしたちの人吉』を使った証拠探し				
予想した学習課題の答え		予想した答えの根拠(事実)		
家族と離れて寂しい思いをしたから		・兵庫県の柏原中学校で授業妨害に合い体を悪くし退職した。		175頁
家族のことを思っていたい歌だったから		・家族のつながりの大切さを歌にした。		177頁
みんなに愛される曲を作りたかったから		・記載なし		
人吉のことを愛していたから		・大正7年、東京ではなく人吉に帰郷した。 ・人吉盆地を取り上げた歌をたくさん作った。		177頁
頭がいいから		・明治30年、熊本師範学校に入学し、4年後、網田小学校の先生になった。 ・網田小学校のオルガンを修理し、東京音楽学校に推薦された。		174頁
歌を作るのが好きだったから		・小学校の頃から音楽に強い関心があった。 ・小学校の頃から楽譜をノートに写していた。		174頁
家族思いだったから		・家族のために借金を返す方法を考えた。		175頁
アメリカの曲に出会い感動したから		・かつて覚えた外国の曲に次々と詞をつけ、名曲に仕上げた。		177頁
展開 2	・次は各自、インターネットや資料を使ったりして証拠探しを行おう。	T 指示する C 調べる	⑦	・表2を参照。

表2 インターネットや資料を使った証拠探し				
予想した学習課題の答え	予想した答えの根拠(事実)			
	インターネット		『球溪散歩』	
家族と離れて寂しい思いをしたから				
家族のことを思っていたい歌だったから				
みんなに愛される曲を作りたかったから				・球溪は曲を音楽雑誌に投稿し評判を確認してから唱歌集にしていた。
人吉のことを愛していたから		・「球溪」という名は、球磨川からとったものである。		
頭がいいから				
歌を作るのが好きだったから		・亡くなるまでに400曲以上作曲した。		
家族思いだったから				
アメリカの曲に出会い感動したから				
終結	・「犬童球溪はなぜ、みんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか」という学習課題に対する8通りの答えからいくつか選び順番を付けよう。	T 指示する C 文章を作る		・多様な答え(後掲の資料3を参照)。

第4時「犬童球溪の秘密をもっと探ろう①- 1880年の前と後 -」

過程	教師の主な指示・発問	教授学習活動	資料	子どもの反応及び子どもに習得させる知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を配布し曲を流す。 ・この曲の名前は何だろうか。 ・この曲をどこかで聞いたことがあるか。 ・『旅愁』と『蛍の光』の歌詞を比べて気づくことはありませんか。 	T 資料の提示 C 楽曲の視聴 T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 発問する C 答える	⑧ ⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を黙読し曲を聞く。 ・蛍の光。 ・卒業式で聞いたことがあるよ。 ・どちらも外国生まれの曲。『旅愁』はアメリカのオードウェイが作曲、『蛍の光』はスコットランド民謡である
展開1	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をみて、聞いたことがある曲名が載っていますか。 ・『ちょうちょう』の原曲も外国生まれ。どこだと思えますか。 ・『仰げば尊し』はどこ生まれの曲だと思いますか。 ・資料をみて、他に気づくことや思ったことを発表しよう 	T 資料の提示 C 答える T 発問する C 答える T 説明する T 発問する C 答える T 説明する T 発問する C 答える	⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・『仰げば尊し』、『ちょうちょう』。 ・原曲はスペイン民謡。野村秋足と稲垣千穎が作詞した。1881年に刊行された『小学唱歌集初編』に集録された。 ・作詞作曲不詳。ただし、作詞には里見義等が関わっていることが判明。1884年刊行の『小学唱歌集第三編』に集録。 ・洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がたくさんあることにびっくりしたよ。1880年代以前には、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がないみたいだよ。
展開2	<ul style="list-style-type: none"> ・1880年代以前に、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がないのはなぜだろうか。みんなが調べたことを使って、この疑問を解決できるだろうか。 ・犬童球溪についてみんなで調べたことを思い出してみよう。 	T 発問する C 予想する T 発問する C 答える		<ul style="list-style-type: none"> ・解決できると思う。解決できるかどうかわからない。 ・①家族と離れて寂しい思いをしたから。②家族のことを思っていたい歌だったから。③みんなに愛される曲を作りたかったから。④人吉のことを愛していたから。⑤頭がいいから。⑥歌を作るのが好きだったから。⑦家族思いだったから。⑧アメリカの曲に出会い感動したから。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「球溪は頭がいいから」を使って説明できるだろうか。1880年以前の日本には頭がいい人はいなかったのだろうか。1880年代以降の日本にしか頭がいい人はいなかったのだろうか。 ・「球溪は家族思いだった」を使って説明できるだろうか。 ・「球溪は人吉を愛していた」はどうだろうか。 ・「家族と離れて寂しい思いをした」はどうだろうか。 ・「歌を作るのが好きだった」「みんなに愛される曲を作りたかった」はどうだろうか。 ・「アメリカの曲に出会い感動した」はどうだろうか。 	<p>T 発問する C 予想する</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 発問する C 予想する</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 発問する C 予想する</p> <p>T 発問する C 答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頭がいい人は1880年以前にもたくさんいたと思う。だから、自分たちが調べたことでは、この問いを説明できないようだ。 ・家族思いの人も1880年以前にたくさんいたと思う。だから、これもこの問いの答えにはならないと思う。 ・郷土愛があった人も1880年代以前にたくさんいたと思う。だから、これも問いの答えにはならない。 ・故郷を離れて寂しい思いをした人は1880年代以前にもいたのではないかな。だから、これも問いの答えにはならないと思う。 ・歌を作るのが好きな人は1880年代以前にもいたはず。だから、これも問いの答えにはならない。 ・アメリカの曲に感動した人は1880年代以前にもいたはず。だから、これも問いの答えにはならない。
終結	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが調べたことだけでは、「1880年代以前、洋楽に日本語の歌詞が付けられた曲がない理由」を説明できないことがわかりました。では、それ以前にはないのに、1880年代以降洋楽に日本語の歌詞を付けた曲が生まれたのはなぜだろうか。 ・この問いの答えは、どうやって調べることができるだろうか。 ・次の時間までに、自分の好きな方法を1つ選んで問いの答えを調べてこよう。 	<p>T 発問する C 予想する</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 宿題を出す C 宿題の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の曲を日本語にしようとする人がいなかったから。外国の言葉が分からなかったから。外国と仲が悪くて曲が入ってこなかったから。真似をしたらいけないと思ったから。お金がなくて外国語の勉強ができなかったから。日本が戦争をしていたから。 ・家族に聞けばわかるかもしれない。校長先生がきっと知っているはずだよ。インターネットで調べたらいい答えが見つかると思うよ。 ・多様な答え。

第5時「犬童球溪の秘密をもっと探ろう②－唱歌と欧化政策－」

過程	教師の主な指示・発問	教授学習活動	資料	子どもの反応及び子どもに習得させる知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題はやってきましたか。 ・今、みんなで考えている問いは何でしたか。 ・今日はみんなが調べたことをもとに、「1880年代以降、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がたくさん生まれたのはなぜだろうか」という問いを考えていこう。 	<p>T 発問する C 答える</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T めあてを提示する C めあてを確認する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・してきたよ！ ・1880年代以降、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がたくさん生まれたのはなぜだろうか。
展開1	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたことを発表してください。 ・すごい！よく調べたね！ 	<p>T 指示する C 発表する</p> <p>T 褒める C 感嘆する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットに明治政府が音楽取調掛を設置して、外国の歌を積極的に取り入れていたことが載っていたよ。 ・よく調べたなあ。すごいや！
展開2	<ul style="list-style-type: none"> ・では、なぜ明治政府は、西洋文化を積極的に取り入れたのだろうか。 ・何をしているところを描いた絵だろうか。 ・この戦争が行われた場所はどこだろうか。 ・季節はいつだろうか。 ・鹿児島の武士たちは、イギリスと戦ってどのような気持ちをもっただろうか。 	<p>T 発問する C 予想する</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 説明する T 発問する C 答える</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない。 ・戦争の様子を描いた絵。 ・鹿児島の錦江湾。桜島が描かれているから。 ・暴風雨が描かれているので夏。正確には1863年8月15日～17日の3日間。イギリスと薩摩（鹿児島）の戦争。 ・イギリスは強いなあ。すごい武器を持っているなあ。次は絶対的に勝ってみせるぞ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の日本が西洋の文化を積極的に取り入れたのはなぜだろうか. ・1880年代以降, 洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がたくさん生まれたのはなぜだろうか. 	T 発問する C 答える T 説明する T 発問する C 答える T 説明する		<ul style="list-style-type: none"> ・日本は江戸時代の末に西洋諸国の強さを実感. そのため, 西洋諸国に負けない国するために西洋文化を積極的に取り入れた. ・明治時代, 西洋諸国に負けない国を作るために, 西洋文化を積極的に取り入れた結果, 洋楽に日本語の歌詞を付けた曲がたくさん作られた.
終結	○ところで日本を西洋化することが目的ならば西洋音楽を原曲のまま歌った方がいいのではないだろうか. なぜ日本語の歌詞を付けたのだろうか. 次の時間は, この謎を追求しよう.	T 発問する C 考える		・わからない.

第6時「犬童球溪の秘密をもっと探ろう③-唱歌と国民育成-」

過程	教師の主な指示・発問	教授学習活動	資料	子どもの反応及び子どもに習得させる知識
導入	○日本を西洋化することが目的ならば西洋音楽を原曲のまま歌った方がいいのではないだろうか. なぜ日本語の歌詞を付けたのだろうか.	T 発問する C 答える		・英語やスペイン語のままでは, 日本人には分からないよ! 親しみやすい曲にするには日本語の歌詞が必要!
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読んで「大事だな」「へえ」と思ったところに線を引こう. ・武士だけでなく庶民も「国の主人公だ」と思えるようにするために, 政府はどのような工夫(政策)を行っただろうか. ・明治時代になるまで, 武士と庶民はどのような点が違っていたのだろうか. これまでに見た番組をヒントにしてみよう. ・政府は, 庶民の国民意識を作るために, 他にどのような工夫(政策)を行っただろうか. ・学校で歌を歌うことは, 国民意識を形成する上でとても重要であると当時考えられていた. なぜだろうか. ・洋楽に日本語の歌詞を付けたのはなぜだろうか. 	T 範読する C 線を引く T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 発問する C 答える T 説明する T 発問する C 答える T 説明する T 発問する C 答える T 説明する	⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の庶民には国民という意識がなかったことにびっくりした! 江戸時代は, 武士が国の主人公だったのだなあ. ・武士と庶民は同じということを政府は言ったのではないだろうか. 武士をなくしたんじゃないかな. ・武士と庶民の服装が違う. 武士は刀を持っているが庶民は持っていない. ・言葉の統一を行った. 職業選択の自由を認め, 移動の自由を認め, 小学校を作り誰もが通えるようにした. 等 ・身分や住む場所に関係なく, 同じ歌を同じように歌えることは, 人々が「平等」「同じ」と感じる上でとても重要なことだから. ○日本に住む人々は西洋諸国の国民になるわけではなく, 日本国の国民になるようにする必要があるから.
終結	・まとめよう. 1880年代以降, 洋楽に日本語の歌詞が付けられた曲が生まれたのはなぜだろうか.	T 発問する C 答える T まとめ		・理由は2つ. 1つ目は, 西洋諸国に負けない国を作るために西洋文化を積極的に取り入れたこと. 2つ目は, 人々の国民意識を形成するためには洋楽に日本語の歌詞を付ける必要があったこと.

第7時「犬童球溪の秘密をまとめよう」

過程	教師の主な指示・発問	教授学習活動	資料	子どもに習得させたい知識 [予想される子どもの反応]
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・この学習の学習課題は何でしたか. ・この課題に対する答えにはどのようなものがありましたか. 	T 発問する C 答える T 発問する C 答える		<ul style="list-style-type: none"> ・犬童球溪はなぜ, みんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか. ・①家族と離れて寂しい思いをしたから. ②家族のことを思ったいい歌だったから. ③みんなに愛される曲を作ったから. ④人吉のことを愛していたから. ⑤頭がいいから. ⑥歌を作るのが好きだったから. ⑦家族思いだったから. ⑧アメリカの曲に出会い感動したから. ⑨明治政府が日本の西洋化をめざしたから. ⑩明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから.

展開	<ul style="list-style-type: none"> ・10通りの答えの中で、どれが一番重要だと思えますか、短冊に書いてみよう。 ・なぜその考えが一番だと思ったのか理由を説明してみよう。 ・「⑨明治政府が日本の西洋化をめざしたから」や「⑩明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」を選んだ人はいませんか。しかし、明治政府が外国の歌を取り入れなければ、犬童球溪が『旅愁』を作ることはなかったのではないだろうか。 ・人吉を愛していただけならば、わざわざ外国の曲に歌詞をつけなくても、日本の歌を作ればいいのではないだろうか。やはり⑩が大事なのではないだろうか。 ・もし音楽が好きだけならば、さっさと同じで日本の曲を作詞作曲するのではないだろう。やはり、わざわざ外国の歌を選んだのは⑩のおかげなのではないだろうか。 ・犬童球溪より前には頭がいい人はいなかったのだろうか。それに頭がよかったとしても、明治政府が曲を取り入れなければ、外国の歌に出会うことはなかったのではないだろうか。 	<p>T 発問する C 短冊に書く</p> <p>T 発問する C 答える</p> <p>T 疑問を投げかける C 疑問に答える</p> <p>T 疑問を投げかける C 疑問に答える</p> <p>T 疑問を投げかける C 疑問に答える</p> <p>T 疑問を投げかける C 疑問に答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人吉のことを愛していたから。歌を作るのが好きだったから。頭がいいから。家族と離れてさみしい思いをしたから。（後掲の資料4を参照） ・人吉のことを愛していないと旅愁は作れないから。頭がよくないと歌を作れないから。歌を作るのが好きでないと400曲も作曲できないから ・人吉を愛していないと「旅愁」という歌にできなかったと思うから、④の人吉を愛していたからだと思います。 ・音楽が好きじゃないと歌を作ろうとは思わないと思うから⑥の歌を作るのが好きだったからだと思います。 ・もし明治政府が外国の歌を取り入れたとしても頭がよくないと日本語の歌詞にできないから、⑤の頭がいいからだだと思います。 ・犬童球溪の個人の能力と明治政府の政策の両方が必要だったのかな。
終結	<ul style="list-style-type: none"> ・「犬童球溪はなぜ、みんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか」という学習課題に対する10通りの答えからいくつか選び順番を付けよう。 	<p>T 指示する C 文章を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な答え（後掲の資料5を参照）。

〈授業資料〉

- ① CD『旅愁』（渕田典子伴奏、人吉市立東間小学校6年生合唱、録音日2013年4月某日）
- ② 歌詞『旅愁』（犬童信蔵『球溪歌集 四季』音楽教育書出版協会、1936年、51-52頁）
- ③ 楽譜『旅愁』（犬童信蔵『球溪歌集 四季』音楽教育書出版協会、1936年、48-49頁）
- ④ 訳詞「夢にも見る家庭と母」（種元勝弘『犬童球溪伝』フォルテ出版、1986年、19-21頁）
- ⑤ 写真「新潟高女第4回卒業生記念写真」（関徹『球溪散策—愛唱歌の周辺をあるく』越書房、1998年、16頁）
- ⑥ 文章「文化の発てんにつくした人」（人吉市立教育研究所社会科部会『わたしたちの人吉市』2014年、173-178頁）
- ⑦ 文章「望郷の歌」（関徹『球溪散策—愛唱歌の周辺をあるく』越書房、1998年、47-55頁）
- ⑧ 歌詞『蛍の光』（堀内敬三・井上武士『日本唱歌集』ワイド版岩波文庫、1991年、16 - 17頁）
- ⑨ CD『蛍の光』（『小学校行事・放送用音楽集 卒業式・入学式の音楽』コロムビアミュージックエンタテイメント）
- ⑩ 年表「日本語の歌詞が付いた主な洋楽」（「d-score」(<http://www.d-score.com/cover.html>) 最終閲覧日2014年9月22日、をもとに作成)
- ⑪ 絵画「薩英戦争絵巻」（『見る・読む・わかる日本の歴史④近代・現代』朝日新聞社、1995年、10 - 11頁）
- ⑫ 文章「『国民』をつくりだす」（大庭邦彦・長志珠絵・小林知子『Jr.日本の歴史⑥大日本帝国の時代』小学館、2011年、47 - 48頁）

れたのはなぜだろうか」という疑問を投げかけ、その答えを宿題として調べてくるよう指示した。

第5時では、洋楽に日本語の歌詞を付けた歌が誕生した背景には明治政府の欧化政策があったことを把握させた。導入部では、「1880年代以降洋楽に日本語の歌詞を付けた曲が生まれたのはなぜだろうか」という本時の学習課題を確認した。展開部1では、子どもたちが宿題で調べたことを発表させた。この課題の答えを調べることができた子どもはほとんどいなかったが、明治政府が音楽取調掛を設置して西洋音楽を積極的に取り入れたことを調べた子どもが一人おり、その調査結果を発表させ、日本が西洋化を目指していたことを確認した。展開部2

では絵画資料「薩英戦争絵巻」を提示して、薩摩藩とイギリスの戦争であったことや日本の船が大きな被害を受けたことを読み取らせる中で、当時西洋と日本の間には大きな差があり、それを痛感した日本政府が西洋化を目指したのだということを実感させた。終結部では「ところで、日本を西洋化することが目的ならば西洋音楽を原曲のまま歌った方がいいのではないだろうか。なぜ日本語の歌詞を付けたのだろうか」という問いを投げかけ授業を終了した。

第6時では、洋楽に日本語の歌詞を付けた歌が誕生した背景には明治政府の国民育成策があったことを把握させた。導入部では、「なぜ日本は西洋化を目指していたのに日本語の歌詞をつけたのか」という本時の学習課題を確認させ、その答えを予想させた。子どもからは「日本語じゃないと分からないから」「日本のいいところを伝えるため」といった予想が出された。展開部では、文章資料「『国民』をつくりだす」を提示し、江戸時代までの日本には国民意識がなかったこと、そして国民意識を形成するために日本語の歌詞の曲を作って、全員が同じ言葉で歌えるようにしたり、学校をつくって等しく教育を受けさせたりしたことを把握させた。終結部では、「1880年代以降、洋楽に日本語の歌詞が付けられた曲が生まれたのはなぜだろうか」という課題を提示し、欧化政策と国民育成策という明治政府が進めた2つの政策の影響によって、1880年代以降、洋楽に日本語の歌詞を付けた曲が続々と作られたことを説明した。このように、第4時から第6時までは、犬童球溪が作った『旅愁』だけでなく、『蛍の光』や『仰げば尊し』など洋楽に日本語の歌詞を付けた曲が数多く作られた事実を示し、単元の学習課題に対する答えが球溪個人の資質だけでは説明できないことを実感させることによって、子どもの常識的な見方・考え方を変容させる学習課題の探究活動を組織した。

第7時は探究結果の総括である。導入部では、「犬童球溪は、なぜみんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか」という単元の学習課題を確認した。展開部では、「学習課題に対する10通りの答え（犬童球溪の個人的資質に関する8通りの答えと彼が生きた時代背景に関する2通りの答え）の中で、どれが一番重要だと思いますか、短冊に書いてみよう」という問いを投げかけ、自分が一番重要だと思う答えを短冊に記入させ黒板に貼らせた。すると、「人吉を愛していたから」「頭がいいから」「歌を作るのが好きだったから」という理由を選択した子どもが多く、「明治政府が西洋化を目指していたから」「国民意識を作りたいから」という理由を選択した子どもは一人もいなかった。そこで、「どんなに人吉を愛していても、どんなに歌を作るのが好きでも、どんなに頭がよくても、明治政府が外国の歌を取り入れなければ犬童球溪は『旅愁』を作れなかったのではないか」という主旨の疑問を投げかけ応答を求めることによって、『旅愁』誕生に対する子どもの見方考え方に揺さぶりをかけた。終結部では、「犬童球溪は、なぜみんなに長く愛される曲を作ることができたのか」という学習課題を投げかけ、その答えの順位付けに取り組みさせた。子どもに10通りの答えから自分が特に重要だと考えるものをいくつか選ばせ、学習した歴史的事実を根拠にした文章を作成させ、本単元の学習を締め括った。次節では、実験授業に伴い実施した学習評価を視点にして、単元「犬童球溪と『旅愁』」の実際について報告しよう。

(吉海雄平)

2. 学習評価の視点からみた単元「犬童球溪と『旅愁』」の実際

(1) 第1時の終結部に実施した診断的評価の実際

単元「犬童球溪と『旅愁』」の実験授業に伴い学習評価を実施した。学習評価は、実験授業の第1時及び第3時の終結部、第7時の導入部及び終結部の4回行った。本節では、これら4回の学習評価に即して、単元「犬童球溪と『旅愁』」の実際について報告しよう。

第1時の終結部で単元の診断的評価を実施した。この評価の目的は、『旅愁』という曲が誕生した理由について子どもたちがどのような見方・考え方を彼らの生活体験を通じて形成しているか把握することであった。そこで、「犬童球溪は、なぜみんなに長く愛される曲を作ることができたのだろうか」という本単元の学習課題の答えを予想させるという形式で学習評価を実施した。第1時終了後、出席者26人の回答を単元の評価規準にして照らして分類し、資料2のように整理した。

26人のうち、無回答だった1人を除く25人の回答はすべて資質主張型に分類した。理由は次の2点である。第1の理由は、いずれの回答者も、犬童球溪の個人的資質に注目して学習課題の答えを記述しているからである。犬童球溪の才能に注目した5番の回答や、犬童球溪の郷土愛に注目した14番の回答などが典型的である。第2の理由は、いずれの回答者も、学習課題に対する自分の考えは記述できているが、その根拠となる事実は取り上げていないからである。例えば、12番の回答者は、「新潟県に行っていて家族などがこいしくなったから」という自分の考えは記述できているが、犬童球溪が家族を恋しがった証拠は示していない。また、16番の回答者も、「家

族や友達が大好きだったから」という自分の考えは記述できているが、家族や友達を好きだった証拠は示していない。これら2つの理由により、回答者26人のうち25人(96.2%)の回答を資質主張型に分類した。

この評価結果を踏まえて、単元の目標設定が妥当であることを確認し、第2時以降の計画を変更することなく授業を進めることにした。なぜなら、子どもたちの回答が資質主張型になることは想定していたため、犬童球溪の個人的資質だけでなく彼が生きた時代的背景を視点にして、『旅愁』誕生の理由を探究させる単元目標を設定し、

資料2 第1時の終結部で子どもが予想した単元の学習課題の答え

番号	子どもが予想した単元の学習課題の答え	無回答 や誤答	資質 主張型	資質 論証型	背景 主張型	背景 論証型
1	じぶんもそんなけいけんをしたからみんなにあいされるうたをつくらることができたんじゃないかなーと思いました。		○			
2	かぞくにやさしく、かぞく思いだけど、旅にでた悲しさと夢にでてくる父と母の事などを歌にして書いた曲が愛される曲となった。		○			
3	家族やみんなにささえられていたから。		○			
4	自分の旅に行ったことを思って歌にしているから。		○			
5	頭がいいから。		○			
6	みんなの事を愛していたり人吉の事を愛してたから。		○			
7	家族から愛されていたから。		○			
8	もともとアメリカの歌だけど、歌を聞いて感動をし、日本語に直して旅にでているさみしさをかいたんだと思いました。		○			
9	新がた県に行って歌と同じことを体験して、そのさびしさをみんなに知ってほしかったから、旅愁の歌を作ってみんなに旅愁の歌が愛されるようになったんだと思います。		○			
10	無回答	○				
11	たまたまアメリカの旅愁を聞いて感動して、それを自分で日本語になおしてすごいとひょうばんになったから。		○			
12	新潟県に行っていて家族などがこいしくなったから。		○			
13	これまでに愛される曲をいくつもつくってきたから。		○			
14	人吉をあいしていたから。		○			
15	アメリカの歌は、長くて、おぼえにくいけど犬堂先生の歌は短くておぼえやすいから。人がらがよかったから。		○			
16	家族や友達が好きだったから。		○			
17	自分と同じけいけんをしたから。		○			
18	自分の家族のことをいっしょうけんめいに考えて気持ちをこめてかいたと思う。		○			
19	家族がとても大事だったから家族に歌を聞かせたかったからだと思う。		○			
20	かぞくのことがすきで、このきよくをきかせたかった。		○			
21	みんなにあいされたいからと思います。あと、音楽がすきだからと思います。		○			
22	歌をつくるのが好きで作っていて、みんなから愛されるような歌をつくりたい思ったから。		○			
23	自分のふるさとの人吉市を愛していたから。		○			
24	家ぞくはとっても大切だよと言っているような曲みただから。そして体験したような曲だから。		○			
25	新潟で家族といっしょにいる夢を見て、家族がこいしくなったときにかいた歌だから。		○			
26	新潟県で先生をしていたけれど、ふるさとは人吉だから家族とはなれてさびしい思いをしたからそれを歌にした。		○			
合 計		1人 3.8%	25人 96.2%	0人 0%	0人 0%	0人 0%

子どもたちの回答が資質主張型から、資質論証型や背景主張型を経て、背景論証型に変容させる単元計画を作成していたからである。

(2) 第3時の終結部に実施した形成的評価の実際

第3時の終結部で単元の形成的評価1回目を実施した。この評価の目的は、第1時で予想した学習課題の答えを、第2時と第3時で探した証拠を使って子どもたちが記述できるかどうか把握することであった。そこで、本単元の学習課題に対する8通りの答えを自由に選択させ、それを順位付けさせるという形式で学習評価を実施した。第3時終了後、出席者25人の回答を単元の評価規準に照らして分類し資料3のように整理した。なお、25人の回答は、資料3の破線部の文章に注目して分類した。

資料3 第3時の終結部で子どもが順位を付けた単元の学習課題の回答

番号	子どもが予想した単元の学習課題の答え	無回答 や誤答	資質 主張型	資 質 論証型	背 景 主張型	背 景 論証型
1	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、じぶんのなまえをくまがわになぞらえてつくるなんて、やっぱり人吉のことがすきじゃなかったのかなーと思いました。			○		
2	第1位は「家族と離れてさみしい思いをしたから」です。理由は、授業をぼうがいまでされたからです。第2位は「家族思いだったから」です。理由は、小学校の先生をして家族を支えたからです。			○		
3	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。第2位は「頭がいいから」です。第3位は「家族思いだったから」です。第1位の訳は、東京に行かずに人吉を選ぶほど人吉が好きだったと思うからです。		○			
4	第1位は「頭がいいから」です。なぜかという県知事がわざわざ東京音楽学校にすいせんしたからです。第2位は「人吉のことを愛していたから」です。なぜかという本名は「犬童信蔵」なのに、自分の名前を球磨川の「球溪」という名前をつけているからです。第3位は「家族と離れてさみしい思いをしたから」です。なぜかという犬童球溪さんは、新潟県にいてさみしい思いをしたからです。			○		
5	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。なぜかと言うとわざわざ本名は「犬童信ぞう」なのに溪に生まれたことから「犬童球溪」にしたと思う。第2位は「歌を作るのが好きだから」です。なぜかという小さい頃から音楽に強いきょうみがあったから。			○		
6	第1位は「球溪という名前は球磨川からとった」です。理由は、球磨川の溪こくから取るぐらい人吉の事を愛してたんだと思うからです。第2位は「東京に行く事をことわり人吉を選んだ」です。人吉を選ぶなら人吉を愛してたからだと思うからです。	○				
7	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、人吉が好きだったからだと思います。第2位は「歌を作るのが好きだったから」です。理由は、音楽に強いきょうみがあったからだだと思います。		○			
8	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、「球溪」という名前は、くま川のけいこくの球と溪をとった名前だから。第2位は「頭がいいから」です。わけは、小学生になった時は、よくべんきょうした。第3位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは、なくなるまで400曲以上作ったから。			○		
9	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、球溪先生が人吉を愛してたという思いがよく分かったからです。第2位は「家族とはなれてさみしい思いをしたから」です。理由は、新潟の学校で生とにぼうがいされたりしたつらいのがよく分かりました。			○		
10	第1位は「なくなるまでに400曲以上の歌をつくった」です。理由は、400曲もたくさんの歌をつくったということは、とても歌が好きだったんだなと思ったからです。	○				
11	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。第2位は「頭がいいから」です。わけは、資料にも頭がよかったからです。第3位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは、なくなるまで400曲以上作ったからです。		○			

12	第1位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは、いんどうきゅうけい先生がなくなる前に400曲以上歌を作ったからです。			○		
13	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、いんどうきゅうけいさんは人吉で生まれているからです。あといんどうきゅうけいさんは、人吉にある球磨川の球を名前をとって自分の生まれた渓谷の溪をとって「球溪」という名前にしたからです。			○		
14	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、人吉のことを愛していたから自分の名前を「球溪」にしたんだと思います。			○		
15	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、「球溪」という名前は球磨川からとった名前だから。第2位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは、小さいころから音楽に強いきょうみがあったから。			○		
16	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、新がたのけしきは人吉の風景にいて、そこで曲をつくったからです。第2位は「頭がいいから」です。わけは、県知事が球溪を音楽学校にすいせんしたからです。第3位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは、なくなるまでに400曲もうたをつくったからです。			○		
17	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、名前を球ま川からとって球溪という名前にしたから。			○		
18	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。東京に行くのを断り人吉を選んだということは、人吉を愛していないとできないと思います。そして、「球溪」とい名前は球磨川からとったということは、球磨川をよほど愛していて人吉も愛していたからだと思います。			○		
19	第1位は「頭がいいから」です。理由は、球溪は小学校に入学した時よく勉強をしたからです。第2位は「たまたまアメリカの曲に出会い感動したから」です。理由は、かつて覚えた外国の歌に次々と詞をつけたからです。			○		
20	第1位は「歌を作るのが好きだったから」です。理由は、歌を作るのが好きだからりょしゅうを作ったんだと思います。400曲以上の歌を作ったのはうたがすきだからだと思います。			○		
21	欠席					
22	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、自分が生まれたところだし、やさしくしてくれた兄もいたから。第2位は「みんなに愛される曲を作りたかったから」です。わけは、雑誌や本にするくらい好きでみんなからも愛される詞をたくさん作って知ってもらいたかったから。			○		
23	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、自分のふるさとの人吉を流れる球磨川から自分のペンネームをつくるほど人吉のことを愛していたのだろうと思うからです。第2位は「頭がいいから」です。わけは、県知事にすいせんしてもらい東京の音楽学校にいけるほど頭がよかったんだと思うからです。			○		
24	第1位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは、歌を400曲もつくったということは、一番音楽を愛していたと思うからです。第2位は「家族思いだったから」です。わけは、渡小学校の先生になり生活を助けたことから、家族をととても大切にしているようだったからです。			○		
25	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、新潟の景色が人吉に似ていて、人吉のことがこいしくなったからからだと思います。第2位は「歌を作るのが好きだったから」です。理由は、小さい頃から音楽に強いきょうみがあり、なくなるまでに400曲以上の歌をつくったからです。第3位は「頭がいいから」です。理由は、県知事が球溪を東京音楽校にすいせんしたからです。			○		
26	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、人吉のことを愛していないと作曲できないような曲だからです。第2位は「家族と離れてさみしい思いをしたから」です。理由は、音楽のじゅぎょうをぼうがいされたりして家族とはなれてさみしかったからです。第3位は「歌を作るのが好きだったから」です。理由は、歌を作るのが好きじゃないとこういういい歌を作らないと思うからです。			○		
合 計		2人 8%	6人 24%	17人 68%	0人 0%	0人 0%

誤答を除く 21 人の回答者のうち、6 人の回答を資質主張型、17 人を資質論証型に分類した。資質主張型の分類理由は(1)で述べたため、ここでは 17 人の回答を資質論証型に分類した理由を示そう。理由は次の 2 点である。第 1 の理由は、いずれの回答者も、犬童球溪の個人的資質に注目して学習課題の答えを記述しているからである。球溪がもつ郷土愛、才能や熱意に注目した 8 番の回答や、球溪の熱意や家族愛に注目した 24 番の回答が典型的である。第 2 の理由は、いずれの回答者も、学習課題に対する自分の考えを、その根拠となる事実を取り上げて記述できているからである。例えば、8 番の回答者は、球溪の名前が球磨川に由来するというネットで発見した事実や、球溪が小学生の時によく勉強したこと等の副読本で発見した事実を証拠にして自分の考えを記述。また 24 番の回答者は、球溪が生涯を通じて 400 曲以上の歌を作ったことや小学校の先生として働き家計を助けたという副読本の事実を証拠として取り上げている。これら 2 つの理由により、回答者 25 人のうち 17 人 (68%) の回答を資質論証型に分類した。

この評価結果を踏まえて、第 3 時までの指導計画が妥当であったことを確認し、第 4 時以降の計画を変更することなく授業を進めることにした。なぜなら、第 2 時と第 3 時の授業を通して、約 7 割の子どもたちが単元の学習課題に対する答えを単に記述するだけでなく、何らかの証拠に基づいて論述できるようになったからである。子どもたちの回答が資質主張型から資質論証型に変化した理由は次の 2 点である。第 1 の理由は、学習課題の答えを考える第 1 時の時間とその答えの証拠探しを行う第 2・3 時の時間を明確に分けて授業を構成したこと。その結果、子どもたちは、学習課題の答えとその証拠の区別を自覚できたため、みんなで発見した証拠をうまく使って自分の考えを記述できたと考えられる。第 2 の理由は、ランキングの手法を用いたこと。多くの選択肢からいくつかを選び順位付けしようとするれば、それらを選んだ理由を明言しなければならない。この手法を用いたことで、自分の考えを理由付けしなくなればならなくなった結果、資質論証型の回答が増えたと考えられる。

(3) 第 7 時の導入部に実施した形成的評価の実際

第 7 時の導入部で単元の形成的評価 2 回目を実施した。この評価の目的は、子どもたちが本単元で学習した学習課題に対する 10 通りの答えの中でどれを最も重視しているか評価することで、その情報を第 7 時の学習指導に活用することであった。そこで、10 通りの答えの中から最も大切だと思うものを 1 つ選ばせ短冊に書かせ黒板に貼らせるという形式で学習評価を実施した。出席者 26 人の回答は資料 4 のように整理できる。

資料4 第7時の導入部で子どもが選んだ単元の学習課題の回答

番号	①家族と離れてさみしい思いをしたから	②家族のことを思っていた曲だから	③みんなに愛される曲を作ったから	④人吉のことを愛していたから	⑤頭がいいから	⑥歌を作るのが好きだったから	⑦家族思いだったから	⑧たまたまアメリカの曲に出会い感動したから	⑨明治政府が日本の西洋化をめざしたから	⑩明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから
1	○									
2						○				
3				○						
4					○					
5					○					
6				○						
7						○				
8				○						
9						○				
10						○				
11				○						
12				○						
13				○						
14				○						
15	○									
16				○						

17					○					
18				○						
19				○						
20						○				
21		○								
22				○						
23				○						
24					○					
25				○						
26				○						
合計	2人 7.7%	1人 3.8%	0人 0%	14人 53.8%	4人 15.4%	5人 19.2%	0人 0%	0人 0%	0人 0%	0人 0%

10通りの答えのうち、子どもに多く選ばれた順に答えを示すと以下ようになる。1番目に多く選ばれた答えは「④人吉のことを愛していたから」であり14人の子どもが選択した(53.8%)。2番目は「⑥歌を作るのが好きだったから」であり5人の子どもが選択した(19.2%)。3番目は「⑤頭がいいから」であり4人の子どもが選択した(15.4%)。4番目は「①家族と離れてさみしい思いをしたから」であり2人の子どもが選択した(7.7%)。5番目は「②家族のことを思ったいい曲だから」であり1人の子どもが選択した(3.8%)。なお、「③みんなに愛される曲を作りたいから」「⑦家族思いだったから」「⑧たまたまアメリカの曲に出会い感動したから」「⑨明治政府が日本の西洋化をめざしたから」「⑩明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」という5つの答えは誰も選ばなかった。

この評価結果は全く想定していなかった。第4時から第6時の授業では、『旅愁』誕生の理由を明治政府の諸政策と結びつけて追究させたので、多くの子どもたちが⑨や⑩の答えを選ぶと考えていた。そのため、第7時では、①から⑧の答えの立場に立って、子どもたちに疑問を投げかけ、彼らの思考を揺さぶるつもりであった。しかしながら、この評価結果を踏まえて、子どもたちが誰も選ばなかった「明治政府が日本の西洋化をめざしたから」や「明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」という答えの立場から子どもの思考を揺さぶるという学習指導の方針に変更した。具体的には、「どんなに人吉を愛していても、どんなに歌を作るのが好きでも、どんなに頭がよくても、明治政府が外国の曲を取り入れなければ『旅愁』は誕生しなかったのではないか」という主旨の疑問を子どもに投げかけた。すると、子どもたちからは、「もし明治政府が外国の歌を取り入れたとしても頭がよくないと日本語の歌詞にできないから、⑤の頭がいいからだと思います」という答えや「犬童球溪の個人の能力と明治政府の政策の両方が必要だったのかな」という答えなどが返ってきた。

(4) 第7時の終結部に実施した総括的評価の実際

第7時の終結部で単元の総括的評価を実施した。評価の目的は、子どもたちが単元の学習成果を活用して学習課題の答えを記述できるかどうか把握することであった。そこで、単元の学習課題に対する答えを順位付けさせるという形式で学習評価を実施した。第7時終了後、出席者26人の回答を単元の評価規準に照らして分類し資料5のように整理した。なお、26人の回答は、資料5の破線部の文章に注目して分類した。

26人のうち、3人の回答を資質主張型、11人を資質論証型、3人を背景主張型、9人を背景論証型に分類した。資質主張型や資質論証型の分類理由は(1)や(2)で述べたため、ここでは背景主張型と背景論証型の分類理由を説明しよう。3人の回答を背景主張型に分類した理由は、明治政府の政策を学習課題の答えとして選んでいるが、その根拠となる証拠を示していないからである。例えば、4番、8番、12番の回答者はいずれも明治政府の国民育成策を学習課題の答えとして選んでいるが、それを学習した事実に基づいて説明していない。それに対して、背景論証型に分類した8人の回答は、明治政府の諸政策を学習課題の答えとして選び、それを学習した事実に基づいて裏付けている。例えば、明治政府の欧化政策を学習課題の答えとして選択し、それを音楽取調掛の設置という歴史的事実や授業者との質疑応答の事実を取り上げて説明している14番や15番の回答が典型的である。このような理由により、回答者26人のうち、3人の回答を背景主張型、9人の回答を背景論証型に分類した。

本単元を計画した当初、この授業を通して、多くの子どもたち、より正確には6割から7割の子どもたちの『旅

資料5 第7時の終結部で子どもが順位を付けた単元の学習課題の回答

番号	子どもが予想した単元の学習課題の答え	無回答 や誤答	資質 主張型	資質 論証型	背景 主張型	背景 論証型
1	第1位は「家族とはなれてさみしい思いをしたから」です。わけは、やっぱりかぞくとはなればなれになって、さみしいおもいをしたから、こんなあいされるきょくをつくるのができたと思います。第2位は「明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」です。わけは、めいじせいふがいくのきょくをにほんごにしてうたにしてくれといわなかったら、いんどうきゅうけいさんやいろんな人たちがうたをつくっていなかったから「明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」じゃないかなーと思いました。					○
2	第1位は「うたを作るのが好きだったから」です。わけは、もともとそうしないと歌を作れないからです。第2位は「頭がいいから」です。わけは、頭がわるかったらできないからです。		○			
3	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、東京に行くことをことわり人吉を選んだからです。2つ目は、頭がいいからです。いくら音楽調掛がせっちされても頭が良くなければこんな歌は、ないからです。			○		
4	第1位は「頭がいいから」です。犬童球溪が頭がよくて、その歌をやろうと思わないとこの歌は生まれなかったからです。第2位は「歌をつくるのが好きだったから」です。なぜかという、犬童球溪さんが歌を作るのが好きで、やっていないと歌がつくれなかったからです。第3位は「明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」です。なぜかという明治政府が決めていないとつくれなかったからです。				○	
5	第1位は「頭がいいから」です。なぜかと言うと頭がよくないと歌は作れないしみんなに愛される曲も作れないから。第2位は「人吉のことを愛していたから」なぜかという球磨川の名前をとるくらい人吉のことを愛していたから。			○		
6	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、球けいという名前は、球ま川からとったから人吉の事を愛していたと思うからです。第2位は「明治政府が日本の西洋化をめざしたから」です。わけは、音楽とりしらがかりがないと球けいは、歌を作れないと思ったからです。					○
7	第1位は「みんなに愛される曲をつくりたかったから」です。理由は有名になりたい曲をつくりたかったから。第2位は「明治政府が日本の西洋化」をめざしたからです。理由は、音楽取調掛がせっちされたから。第3位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、新潟の景色が人吉に似ていたからです。					○
8	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。犬童球溪先生の「球溪」はくま川の名前からとっているし明治せいふが国民の意しきを高めようとしても犬童球溪先生は、やっぱり人吉の人間だから人吉のことを愛していたと思います。(ふるさと)第2位は「頭がいいから」です。なぜかという歌を作る人やいろいろな物を作る人でもいろいろなことを学んで頭がよくないといけないからだだと思います。第3位は「明治せいふが人々の国民意しきを高めようとしたから」これがないと歌が作れないから。				○	
9	第1位は「歌をつくるのが好きだったから」です。球溪が歌が好きじゃなかったらこきょうのはいかなどはなかったと思います。第2位は「人吉のことを愛していたから」です。球溪は人吉を愛していたから日本語にしたと思います。		○			
10	第1位は「明治生が国民意識を高めようとしたから」です。理由は、明治政府が人々の国民意識を高めようとするまで、犬童球溪は外国の歌に日本語の歌詞をつけていなかったのではないかと思ったからです。第2位は「歌を作るのが好きだったから」です。理由は、なくなるまでに400曲も歌をつくれた球溪は、とても歌作りが好きだったんだなと思ったからです。					○
11	第1位は「人吉を愛していたから」です。理由は、東京に行くことをことわってまで人吉を選んだからです。第2位は「頭がいいから」です。わけは、頭がよくないと外国の歌を日本語になおせないと思ったからです。			○		

12	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。第2位は「明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」です。第1のわけは、すごく人吉のことを愛していたからだと思います。第2のわけは、もしかしたら明治政府がいったから作ったかもしれないからです。				○	
13	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、くまがわのくをとってひとよしにうまれたからです。第2位は「頭がいいから」です。わけは、犬童きゅうけいが頭がよくないと「旅愁」は作れなかったからです。				○	
14	第1位は「明治政府が西洋化をめざしたから」です。わけは、音楽取調掛が設置しないと球溪は、音楽を作れなかったのかもしれないからです。					○
15	第1位は「明治政府が西洋化をめざしたから」です。理由は、吉海先生の発言に負けたからです。(同点だけど)第2位は「家族とはなれてさみしい思いをしたから」です。理由は、家族とはなれてさみしい思いをしたからこそ、「旅愁」や「こきょうのはい家」を作れたと思うからです。					○
16	第1位は「めいじせいふが、国民のいしきをたかめようとしたから」です。理由は、めいじせいふが、歌をつくって、といわないと、曲はつukれないからです。第2位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、人吉のことをあいてないとあんな曲はつukれないからです。第3位は「歌をつくるのが好きだったから」です。理由は、なくなるまでに400曲もつukり、子どものころから音楽に強いきょうみをもっていたからです。					○
17	第1位は「頭がいいから」です。理由は、県知事が球溪を東京音楽学校にすいせんするほど頭がよかった。人吉の学校に来てほしいとも言われているから。もう1つは「人吉のことを愛していたから」です。理由は、球磨川から名前を取るほど人吉のことを愛していたから。				○	
18	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。だって犬童球溪さんは、人吉のことを愛していないとぜったいに球磨川から名前をとることはできないと思います。そして東京に行くことをことわり人吉を選んだということは、やはり人吉のことを愛していないとできないと思います。2つ目は、なくなるまでに400曲も作ったということは、とても歌が好きで歌をいっぱい作ったんだと思います。				○	
19	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、球溪という名前は、球磨川からとったからです。第2位は「頭がいいから」です。理由は、小学校に入学した球溪は、よく勉強したからです。				○	
20	第1位は「歌をつくるのが好きだったから」です。わけは、歌が好きだから、なくなるまでに400曲以上のきょくをつくったと思います。小さいころから、おんがくにきょうみがあったからうたをたくさんつくったと思います。				○	
21	第1位は「家族のことを思ったいい曲だから」です。かぞくからはなれてさみしいおもいをしたからだと思います。第2位は「人吉のことを愛していたから」です。人吉のことをあいていたと思います。第3位は「家族思いだったから」家族のことをきになってさみしいと思いました。				○	
22	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、球溪と言う名前は、人吉を愛していたからつけた名前。第2位は「家族思いだったから」です。わけは家族を思いながらもはなれた所にすんで心配もさせたし、でも渡からだ15分位で家につくから。				○	
23	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。理由は、自分のふるさとの人吉を流れる球ま川から名前をとるぐらい愛していたからじゃないかと思ったからです。第2位は「明治政府が日本の西洋化をめざしたから」です。理由は、明治政府に音楽取調がかりというものがなかったら犬童球溪先生は、曲をつくることができなかつたと思ったからです。					○
24	第1位は「歌を作るのが好きだったから」です。わけは歌を作るのが好きじゃなかつたら心をこめた曲などつukれなかつたからです。第2位は「頭がいいから」です。だって頭がよくないといい曲を作れないからです。第3位は「明治政府が人々の国民意識を高めようとしたから」です。わけは、明治政府が外国の歌を日本の歌にしたらという所がないとたぶん外国の歌を日本の歌にすることはなかつたからです。					○

25	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。それは、「球溪」という名前は、球磨川からとっているから、とても、愛していたのではないかと思ったからです。第2位は「歌を作るのが好きだったから」です。それは、小さい頃から音楽に強いきょうみを持っていたからです。第3位は「頭がいいから」です。それは、頭がよくないと、みんなから愛される曲をつくれなと思うからです。			○		
26	第1位は「人吉のことを愛していたから」です。わけは、人吉のことを愛していないと、作れそうにもない、いい曲だからです。しかも球磨川からとった名前だからです。(球溪きゅうけい)第2位は「頭がいいから」です。わけは、これも頭がよくないとこんないい曲を作ることはできないと思うからです。第3位は「歌をつくるのが好きだったから」です。わけは、歌をなくなるまでに400曲以上つくっているし、小さいころから音楽への強いきょうみをもっていたからです。			○		
合 計		0人 0%	3人 11.5%	11人 42.3%	3人 11.5%	9人 34.6%

愁』誕生に対する常識的な見方・考え方を容れさせることができると考えていた。しかしながら、本単元の学習を通して回答が資質主張型から背景論証型に変容した子どもはわずか9人(34.6%)にとどまった。このような結果になった主な要因は、学習課題の答えを考えさせる時間とその証拠探しを行わせる時間とを明確に分離して第4時から第6時の授業を構成しなかった点にあると考える。第4時で「1880年代以降、なぜ洋楽に日本語の歌詞が付いた歌が数多く生まれるのだろうか」という問いを設定した後、第5時ではその問いの答えを明治政府の欧化政策として論証する授業、第6時ではその答えを明治政府の国民育成策として論証する授業として構成した。その結果、子どもたちは、明治政府の欧化政策や国民育成策の根拠となる証拠をたくさん探すことができず、明治政府の諸政策を重大な要因として認識できなかったのではないだろうか。したがって、第4時で前述の問いを設定するとともに、その答えとして明治政府の欧化政策と国民育成策を提示し、第5時と第6時ではその証拠探しを文献やインターネットで行わせるように授業を構成すべきであった。そうすれば、子どもたちは、自分たちで探した豊富な証拠に基づいて明治政府の諸政策の重大さを実感できるため、第7時の終結部において背景論証型の回答がより増加したのではないかと考える。

単元「犬童球溪と『旅愁』」の学習過程と学習評価を視点にして、子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科授業の実際を示すと以上のように整理できる。子どもが授業で考えたことを自分の言葉で表現する学習評価を単元の要所で実施し、その結果を判断する評価規準を作成することによって、社会の見方・考え方の変容をめざす単元の目標設定や授業計画のあり方を確認・修正したり、その評価情報を活用してより効果的な学習指導を行ったりしたわけである。

(恒松龍治)

IV. 研究の意義と課題

本稿では、学習評価を活用して思考力・判断力・表現力の育成を図るためには、どのような社会科授業を開発すればよいか、という課題に答えるために、子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科授業作りの方法を提起した。具体的には、構成主義の学習観に基づく問題解決的な単元を構成するとともに、言語活動と社会の見方・考え方をクロスさせた評価規準を作成することによって、単元各所で子どもの社会の見方・考え方を可視化し評価して、指導の改善や授業の見直しを行うことができることを、単元「犬童球溪と『旅愁』」の開発を事例に明らかにした。本研究の意義と課題を整理すると以下の通りである。

研究の意義は、指導と評価の一体化を図る指導改善の方法を具体的に示したことである。従来の社会科教育研究では、テスト問題を作成して単元の総括的評価を実施し、その結果をもとに教授計画書を修正するという授業改善の方法を示すことによって、指導と評価の一体化を図ってきた¹²⁾。しかしながら、単元の始めや途中で行う診断的評価や形成的評価をどのように実施して、単元の学習指導をどう進めるかという指導改善の方法については明らかにされてこなかった。本研究では、総括的評価だけでなく診断的評価や形成的評価を実施し、その結果を評価規準に照らして目標設定や指導計画の妥当性を検討することにより、その後の指導方針を確認・修正して授業を行うという指導改善の方法を具体的に明らかにした。

研究の課題は、子どもの言語活動を通して社会の見方・考え方の変容を評価する小学校社会科授業作りの方法の妥当性をさらに吟味・検討することである。本稿では、説明型社会科授業を事例にして、この授業作りの方法の妥当性を検討したが、社会科には意思決定型や議論型、社会参加型など、様々な方法原理に基づく社会科授業が存在する。説明型以外の方法原理に基づく社会科授業を事例にして、本稿で提起した授業作りの方法が有効であるかどうか検討していきたい。

(藤瀬泰司)

【註】

- 1) 「学校教育法等の一部を改正する法律」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166/07040503/003.pdf) 最終閲覧日 2015年3月8日。
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社, 2008年, 14頁。
- 3) 岩田一彦・米田豊編著『「言語力」をつける社会科授業モデル 小学校編』明治図書, 2008年。
- 4) 例えば, ①小原友行「公民的資質の育成につながる『リテラシー』の育成を」『現代教育科学』第620号, 明治図書, 2008年, 26-28頁, ②小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』明治図書, 2009年, を参考にした。
- 5) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「子ども生徒の学習評価の在り方について(報告)」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm) 最終閲覧日 2015年3月5日。
- 6) 社会科の方法原理については, 社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書, 2012年, を参照されたい。
- 7) 文部科学省『小学校学習指導要領 社会編』東洋館出版社, 2008年, 4頁。
- 8) 同上書, 21頁。
- 9) 同上書, 50頁。
- 10) 構成主義の学習観については, ①ケネス・J・ガーゲン『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版, 2004年, 柴田義松『ヴィゴツキー入門』寺子屋新書, 2006年, を主に参考にした。
- 11) 教授計画書を作成するにあたっては, ①奥中康人『国家と音楽—伊澤修二がめざした日本近代—』春秋社, 2008年, ②関徹『球溪散歩—愛唱歌の周辺をあぐる—』越書房, 1998年, ③種元勝弘『犬童球溪伝—作詞・曲・人間像—』フォルテ出版, 1986年, ④前田紘二『明治の音楽教育とその背景』竹林館, 2010年, ⑤山東功『唱歌と国語—明治近代化の装置—』講談社メチエ, 2008年, を主に参考にした。
- 12) 授業改善を射程に入れた単元開発研究については, ①阿部由貴子「歴史的見方・考え方を習得する学習の評価—理論探求型単元『律令国家とは何か』の開発—」『社会科研究』第68号, 2008年, 21-30頁, ②徳本侑子「授業改善過程の実証的研究—理論の精緻化をはかる社会科授業における指導と評価の一体化—」『教育学研究紀要(CD-ROM版)』第52巻, 2006年, 144-149頁, 等を参照されたい。

付記 本論文は, 平成26~28年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)河野順子代表「論理的思考力・表現力育成のための幼小中・教科間連携によるカリキュラム授業開発」(課題番号26285202)の成果の一部である。